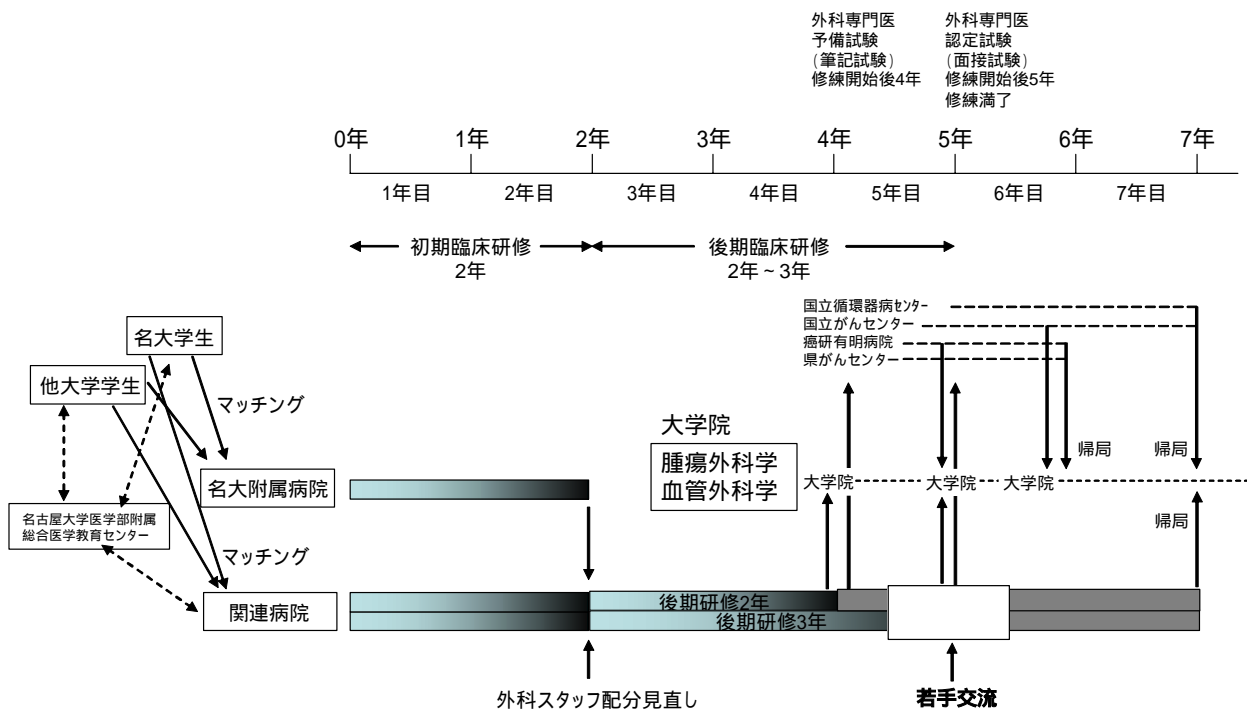


コースの概要

(1) コースの全体像

血管外科では、消化器外科とともに第一外科ユニット（旧第一外科学教室）を構成し、関連病院と密に連携して高度医療人を養成するカリキュラムを20年以上前から実施している（別紙）。初期研修及び2-3年の後期研修の後、希望者は大学院での基礎的、臨床的研究を行う。いずれも希望しない場合は、別の関連病院に赴任する。この時期に外科専門医の取得が可能である。本コースの目的は心臓血管外科専門医取得のみではなく、バランスの取れた臨床外科医の育成である。大学院進学が5年終了時からというのは、一流の優秀な臨床外科医となるためにはこの時期に研究生生活を経験する事、またこの時期に大学での最先端の高度な診療技術を学ぶことが非常に重要であると考えているからである。その後、関連病院に赴任するか外国留学を行い、最終的に心臓血管外科専門医を取得することを目標としている。

第一外科ユニット卒後教育システム



(2) コースの概要

コース名：血管外科専門医取得コース						
大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	養成(受入)人数	期間
名古屋大学	血管外科	血管外科 血管内治療	4名	心臓血管外科専門医取得	8名	1年から3年

				専門的外科技能の習得 国際的な広い視野を持った血管外科医の育成		
大垣市民病院	外科	一般外科	1名	基礎的外科技能の習得 外科専門医取得 心臓血管外科専門医取得	1名	3年
名古屋第一赤十字病院			1名		1名	
安城更生病院			2名		2名	
春日井市民病院			1名		1名	
市立半田病院			2名		2名	
中京病院			1名		1名	
豊田厚生病院			2名		2名	
久美愛厚生病院			1名		1名	
津島市民病院			1名		1名	
碧南市民病院			1名		1名	
国立長寿医療センター			1名		1名	
遠州病院			1名		1名	
東海病院			1名		1名	
常滑市民病院			1名		1名	
袋井市民病院			1名		1名	
名古屋通信病院			1名		1名	
市立四日市病院	2名	2名				
県立循環器呼吸器病センター	血管外科	血管外科 血管内治療	3名	専門的外科技能の習得 心臓血管外科専門医取得	3名	3年
公立陶生病院	心臓血管外科	血管外科	1名	専門的外科技能の取得 心臓血管外科専門医取得	1名	3年
県立多治見病院		心臓外科	1名		1名	
名古屋第二赤十字病院		血管内治療	1名		1名	
				受入人数	5名	

(3) コースの実績

過去 20 年以上にわたり、改訂を行いながらコースの完成度を高めてきた。大学病院、関連病院の指導者は全員このコースを修了した者である。大学病院と関連病院が密に連携しており、手術件数を常に把握しているため、資格試験申請時に経験症例数が足りないということはない。指導者の外科専門医の取得率はほぼ 100%、心臓血管外科専門医の取得率は約 25% である。他大学からの若手外科医の後期研修も関連病院で受け入れている。

(4) コースの指導状況

手術、周術期管理については、大学への帰局までに二つ以上の施設で二人以上の指導者について学ぶこととし、治療方針が偏らないように配慮している。外科専門医並びに心臓血管外科専門医取得に必要な症例を経験する。論文指導は各関連病院で主に和文論文の、大学病院で学位論文を含む英文論文の指導をしている。また大学に帰局するまでに心臓血管外科専門医を取得するのに必要な心臓血管外科関連 3 編を書き上げるよう指導する。

(5) 専門医の取得等

学会等名	日本外科学会
資格名	外科専門医
資格要件	外科専門医修練期間満 4 年以上経過で予備試験（筆記試験）に合格。 指定施設、関連施設において通算 5 年以上の修練実施計画を修了。 最低手術経験数 350 例、術者として 120 例以上 規定の業績が 20 単位以上あること
学会の連携等の概要 若手が研修する関連病院はすべて日本外科学会の指定施設か関連施設として登録されており、指導者が存在する。全員が入局と同時にそれ以前に外科学会に入局して修練開始。	

学会等名	日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会
資格名	心臓血管外科専門医
資格要件	日本外科学会認定もしくは外科専門医であること 卒後修練期間 7 年以上有すること 認定修練施設において 3 年以上の修練期間を有すること 術者として 50 例以上の手術経験、第一助手として 50 例以上の手術経験 査読制度のある全国誌以上の論文 3 編以上(筆頭論文 1 編以上を含む) 全国規模あるいはそれ以上の学術集会で 3 回以上筆頭縁者として発表していること
学会の連携等の概要 心臓血管外科専門医取得を希望する若手が研修する関連病院は指導者のいる認定修練施設になるよう配慮する。	

